

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度 第9回 相模原市総合計画審議会				
事務局 (担当課)		企画政策課 電話042-769-8203(直通)				
開催日時		平成30年12月10日(月) 18時00分~20時00分				
開催場所		相模原市役所第2別館3階第3委員会室				
出席者	委員	23人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	16人 (企画部長、企画政策課長 他14人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	4名
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		開会 1 議事 (1) 基本構想について (2) その他 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり

(委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言)

開会 椎橋企画政策課長

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 基本構想について

- 地方自治法が改正され、基本構想の義務付けが廃止されて以降、総合計画を行政計画ではなく市民の行動指針である公共計画として策定している自治体が出てきている。今後のまちづくりは、市民も当事者・主体となって進めていく必要があり、公共計画的な書きぶりとする必要があるのではないかと。これまでの検討経過においてどのように整理をしてきたか確認したい。また、行政計画との事務局の発言の一方、基本理念の主語が「わたしたち」となっており、公共計画のような表現となっているが、その整合性を確認したい。

次期総合計画策定の議論において、公共計画、行政計画という整理を行った経過はない。まちづくりを進めるに当たっては、市民協働推進条例に基づき、当然に協働の理念で取り組むものと考えているが、計画の策定については、多様な市民の意見を伺い、反映に努めた上で行政計画とするものと考えている。また、まちづくりを大きな視点で捉えた基本理念の主語については、市民と一緒に取り組むという趣旨からそのように整理したもの。

行政計画であるとの事務局の説明はあったが、本審議会において行政、市議会、市民がともに議論を深めており、また、政策の中には「主体との協働により」という表現もされていることから、内容は公共計画の側面も有しているのではないかと考える。行政計画・公共計画のいずれか割り切る必要はあるか。

- 政策 16 を見ると、前段は住民としての行動指針のような書き方となっており、後段は行政計画的な書き方となっている。このような構成を基本として全体をまとめていけばよいのではないかと。また、今後、区の計画を策定していくに当たって、これまでの区ビジョンには「区民プラスワン意識」として区民の取組が記載されている。基本構想においてそうした概念がないと、区別基本計画で区民の取組を記載していくことができず、現行計画から後退してしまうことが懸念される。

同感であり、各政策の後段の書き出しを、例えば、「市は市民と連携して」、「市民と市は連携して」、「市は市民を主役として」などと表現したほうがよいのではないか。原案では「こうした状況を踏まえ」となっているが、前段の課題を受けていることは分かっているため、不要ではないか。

部門別計画も含め、一般に市が定める計画において、そうした表現をしていないが、今後、基本計画や実施計画において、主体を明確に記載していくことも考えられる。

原案を作るのは行政だが、策定された計画を実行するのは、行政・市議会・市民であることから、そうした表現にしたほうがよいのではないか。検討いただきたい。

- 地域福祉活動計画、地域福祉計画はセットで策定し、取組を進めている。地域福祉計画は理念的なものであるが、地域福祉活動計画は社会福祉協議会が主体となり、市民が何をすべきかを定めている。基本計画や実施計画では、主体を表現するものも想定されること、本審議会において、市民や市議会が入って議論しており、また、最終的には市民の代表である市議会に諮り、議決を得ることを踏まえると、基本構想において、市民などの主体を細かに表現する必要はないのではないかと考える。

【実現に向けた基本姿勢】

(2)の「相互の利活用」は、「利用」、又は「活用」で十分ではないか。また、「中心的に取り組む」は、「中心的な役割を果たす」が適切ではないか。

(3)の「横断的・統合的」は、「市民と連携して横断的・統合的」がよいのではないか。

【政策1】

対応の方策に、「仕事と生活の調和、ワークライフバランスの実現に取り組みます。」などと表現したほうがよいのではないか。

【政策2】

「多様な学習ニーズ」は「多様で高度な学習ニーズ」としてはどうか。近年ではそうしたニーズもある。

「多様」に「高度」も含まれるものと認識している。

- 今の意見について、例えば「多様で質の高い」とすればよいのではないか。
- 「学んだ成果を地域での活動に生かすことが求められています」は、成果を必ず地域での活動に生かさなければならないという印象を受けるので、修正前の表現に留めたほうがよいのではないか。
- 生涯学習は、個々が学ぶことであり、社会教育は、学んだことを地域に生かすことと理解している。
- 地域還元は一つの考え方ではあるが、必ずしも還元先は地域とは限らない。市民が学んでいくことは、地域づくりにも生かされるであろうが、地域以外にも生かされ、結果としてまちの発展に寄与すると考えることが、捉え方としては望ましい。修正案が良いとは思っていない。
- 「AI等の技術革新」が表現されたことを受け、産業教育まで含めた内容としたほうがよいのではないか。

政策10に要素が含まれていると考えている。

【政策3】

「高齢者や障害者の地域生活の支援」の「地域」は不要ではないか。

【政策4】

「生活習慣病対策」とあるが、記載が必要か。「心と身体の健康づくり」に含まれるのではないか。

【政策5】

「人権を認め合う社会づくりへの要請」を「人権を認め合う社会づくりや世界平和の実現への要請」としたほうがよいのではないか。「平和意識の向上」が唐突である。

【目指すまちの姿】

「魅力ある景観を形成することで」は「魅力ある景観の形成により」としたほ

うがよいのではないか。

【政策 6】

「東日本大震災をはじめ」は不要ではないか。

2 段落目に「ため」が続くので、「災害リスクを低減する計画的」でよいのではないか。

【政策 8】

「魅力的な市街地の景観」とあるが、文化財保護法が改正され、文化的景観に集落景観、農村景観などが該当するとされている。そうした中、「魅力的な市街地の景観や農村景観」としてはどうか。

- 都市計画法が改正され、用途地域内に「田園住居地域」が設定されたことや、都市農業推進基本法においても、市街化区域内の農地の考え方が変わってきている。農業について、政策のどこかで表現していただきたい。
- 「安心して暮らせる」と景観が繋がらない印象があるため、検討いただきたい。

【目指すまちの姿】

「人口減少社会においても活力とにぎわいを生み出します」は、「活力とにぎわいのあるまちづくりを進めます」としたほうがよいのではないか。

【政策 9】

- 「集約連携型」が分かりにくいのではないか。また、その在り方も議論されていることを踏まえ、検討いただきたい。

事務局が熟考した表現ではないかと考える。国土交通省では、「無秩序な拡散型都市構造を集約型都市構造に転換する」という姿勢が示されている。大まかには、将来的に生活利便施設を不便なく徒歩で利用できる都市構造にしていくことが必要となる。現状のままでは、空家が増加し、非効率な都市構造となり、市民の負担が大きくなる。そうした中においては、この表現をこのまま残したほうがよい。

【政策 10】

「など」が多く使われているため、極力、必要のある部分のみに使用するよう検討いただきたい。

「地域経済の活性化を進めます」は、「地域経済の成長と発展を図ります」としたほうがよいのではないか。

- 先ほどの農業の話も踏まえると、修正前の「工業、農林業、商業、観光」を残したほうがよいのではないか。また、タイトルが「日本の経済を牽引」となっているが、本文の文末が「地域経済の活性化」になっているので、整合が図られるよう検討いただきたい。
- 「農業」という表現を付け加えていただくことはありがたい。農地は「都市化するもの」という考え方から、「都市にあるべきもの」という考え方に変わってきており、農業に対する期待度が高まっている。今後、農協も行政とともに農業振興に向けた施策の展開を進めていきたいと考えている。

【政策 1 1】

「市民・市議会・行政が一体となり」は、行政は議会と並列の立場とは違うため、「市民・市が一体となり」ではどうか。

- 市議会は、市民と同じ立場、価値観で活動をしており、「行政と市議会」を「市」と捉えることには違和感があるため、事務局案のままがよいのではないか。
- これまでであれば、原案でよいが、現在の局面においてこの表現でよいか懸念がある。米陸軍部隊司令部が相模総合補給廠に駐留されたところであり、これが基地強化と捉えるか考え方が分かれているところだが、いずれにしても、「騒音被害や事故への不安など」では、明らかに現状認識に不足があるのではないか。例えば「機能強化を認めず」と表現するなど検討したほうがよい。

「機能強化」の表現について、検討いただきたい。

【目指すまちの姿】

「低炭素社会」を、もう少し踏み込んだ表現として「脱炭素社会」にすることはどうか。

「脱炭素」までは難しいという認識である。

【政策 13】

「地球温暖化の進行による気候変動の影響が世界的に顕在化しており」とあるが、どのような影響があるかが表現されていない。例えば、「安定した気候は、生態系を維持し、食料を生み出し、暮らしを安全に守ります」など、意味合いを入れてはどうか。

【政策 14】

「生物多様性の保全などの取組」とあるが、「多様性の保全など、健全な自然生態系の保全を進める」としたほうがよいのではないか。

- 水、山など自然の生態系について触れているが、農業もこうしたことに関連する部分もあるのではないか。都市農業振興基本法の目的において、「良好な景観の形成」と表現されていることなどからも、農業について記載できないか検討いただきたい。

【政策 15】

「自然がもたらす効果や快適性」とあるが、どのような効果をもたらすのかが表現されていない。例えば、「自然がもたらすやすらぎや快適性」としてはどうか。

【政策 16】

- 自治会連合会では、自治会加入率の停滞と若者の参加が少ないことが大きな課題となっている。加入者と未加入者の差別化が難しい中、どのように若者や元気な高齢者が参加できる仕組みをつくるかが重要であり、その解決に向けた取組を検討していく必要がある。
- 「連携を強化して地域課題の解決に取り組むとともに」とあるが、修正前にはこうした表現はなかった。団体を組織していくという考えだけでなく、様々な考えのある個人がどうしたら地域活動に参加できるのかという仕組みづくりや、情報の共有などについて表現したほうがよいのではないか。

今後もコミュニティづくりは重要と認識しており、いただいた意見は基本計画や実施計画において表現していくことで検討したい。

- ライフスタイルが多様化している中、ゆるやかな繋がりをどのように作るかや、小さな声をどのように応援していくかを表現していくほうが、個人が参加しやすくなるのではないか。大まかな方向である基本構想において表現することがよいのではないか。また、前段については、「まちづくり会議を中心に、横断的にまちづくりを進めています」は、地域によっても違いがあり課題も異なるため、もう少し表現を工夫してもらいたい。参加していない市民が見た時に、参加しやすくなる表現を検討いただきたい。

もう少しゆるやかに連携していく、ほどほどの信頼関係を持ちながら生活していくというニュアンスとすることがよいのではないか。

【政策17】

- 少子高齢化が進むから財政難になるという考え方について、市においては過去、多子社会であったことが財政難となっていた経過がある。また、財政状況が厳しくなっている要因が保育ニーズへの支出になってきており、国の制度設計により更に押し付けられる領域の拡大が確実にまっていることから、これを理由として表現したほうがよいのではないか。保育ニーズを限定的に表現することはどうかとも思うが、国の政策レベルで都市の負担が増加しているという背景は表現したほうがよいのではないか。また、「市民と行政」は「市民・市議会・行政」としたほうがよいのではないか。

【基本理念】

本日、初見のため、次回審議を行い、決定することとしたい。また、気付いた点で言えば、「示唆される」は「示される」が適切ではないか。また、「都市の実現に向けて」は「都市の実現を基本理念として」とすることもよいのではないか。

- 基本理念としては、文章が長すぎるのではないか。基本理念は根本的な部分であり、現基本構想も短く端的なものであった。細かな部分はこれ以降の政策や基本計画等で表現されてくるため、それらを網羅した文言とする必要があるのではないか。目指すまちが多く出てくるが、書く必要があるのか。いずれにしても文章が長い印象である。

(2) その他

傍聴者の資料の持ち帰りについて、制度所管課における現時点の検討状況を報告した。

本日の議事は終了とする。

閉会

椎橋企画政策課長

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	吉田 民雄	総合政策プランナー	会長	出
2	金森 剛	相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科教授	副会長	出
3	松永 千賀子	相模原市議会議員		出
4	五十嵐 千代	相模原市議会議員		出
5	阿部 善博	相模原市議会議員		出
6	須田 毅	相模原市議会議員		出
7	岸浪 孝志	相模原市議会議員		出
8	加藤 明德	相模原市議会議員		出
9	永井 博	相模原市教育委員会教育長職務代理者		出
10	高橋 三行	相模原市市農業委員会会長		出
11	小泉 幸隆	相模原市農業協同組合代表理事組合長		出
12	杉岡 芳樹	相模原商工会議所会頭		欠
13	水谷 好男	相模原市立小中学校PTA連絡協議会副会長		出
14	坂本 堯則	相模原市自治会連合会会長		出
15	小山 龍次	公益社団法人相模原青年会議所理事長		出
16	戸塚 英明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会会長		出
17	石井 トシ子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら代表		出
18	幸山 隆	相模原地域連合事務局長		欠
19	竹村 克二	一般社団法人相模原市医師会会長		欠
20	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科教授		出
21	中田 恭子	青山学院大学理工学部化学・生命科学科准教授		欠
22	長野 基	首都大学東京都市環境学部都市政策科学科准教授		出

23	西田 恵一郎	和泉短期大学児童福祉学科准教授		出
24	大谷 聡穂	公募委員		欠
25	栗田 愛子	公募委員		出
26	高田 泉	公募委員		欠
27	林 佳美	公募委員		欠
28	牧瀬 稔	相模原市緑区区民会議会長		出
29	飯島 泰裕	相模原市中央区区民会議会長		出
30	松下 啓一	相模原市南区区民会議会長		出